

記念講演



『組織を活かすマネジメント』

おがた こういち

講師：緒方 孝市 氏

野球評論家（前広島東洋カープ監督）

佐賀県鳥栖市出身

【講師紹介】

- ・小学生から野球を始め、中学校では3年時にセカンドのレギュラーとして、県中学総体を制し、九州大会に出場。
- ・高校は猛勉強の末、前年甲子園に出場した県立鳥栖高校へ進学。走攻守の揃った大型セカンドとして活躍。3年時にはキャプテンとして春の九州大会ベスト8。
在校時代は九州大会出場…2回、県大会優勝…3回、準優勝…2回、ベスト4…1回。
- ・広島東洋カープ入団後は俊足を活かすために外野手に転向。1995年には47盗塁を記録し盗塁王を獲得。96, 97年も獲得し、3年連続盗塁王に輝く。同じく95年から5年連続で守備の名手に贈られるゴールデングラブ賞を受賞。また、全力プレーによるけがでの戦線離脱も多かったがその都度復活。現役後半は、足のけがで減少した盗塁に代わり打率アップや本塁打を量産。常に前向きに、その時の自分に合ったプレースタイルを作り上げていく姿勢は後輩選手の手本となった。
- ・現役引退後は一軍コーチを経て2015年に監督に就任。1年目4位の反省を生かし、翌年は見事に、カープを25年ぶりのセントラルリーグ制覇に導く。ここから球団初のリーグ3連覇は記憶に新しいところ。現在は、現役選手、コーチ、監督の経験を活かし、野球評論家として活躍中。

【経歴】

- ・1984年 鳥栖市立鳥栖中学校卒業
- ・1987年 佐賀県立鳥栖高等学校卒業
- ・1987年 広島東洋カープ入団（ドラフト3位）
- ・2009年 現役引退
- ・2010年 広島東洋カープ一軍野手総合コーチ
- ・2011年 ” 守備走塁コーチ
- ・2013年 ” 打撃コーチ
- ・2014年 ” 野手総合ベンチコーチ
- ・2015年 ” 監督就任
- ・2019年 ” 監督退任
- ・現 在 プロアスリート所属 野球評論家



記念講演

監督就任一年目の失敗の経験

2015年 大きな期待とともにスタートしたシーズン。投手や選手のバランスのとれたチームで、優勝候補と言われていた。また、カープ女子などのファンの期待や盛り上がりもあり、監督として自信をもってスタートした。しかし、4月は、まさかの7連敗で最下位という結果。不安要素が次々と勃発し、優勝争いができない状態だった。ここ一番、勝てばAクラスという最終戦も、中日に完封負けという結果だった。自分は監督として、負けを受け止め、情けなかった。

どのようなミスや失敗で負けたのか。なぜチームが持っている能力を発揮できずに敗れたのか。膨大なデータが残った。69勝71敗。1点負けが27試合だった。接戦で負けるのは、監督の責任であると思った。もし、10試合勝っていれば、十分にAクラスに残ることができた。もしかしたら、1年目に受け継いだ戦力で、受け継いだ戦い方をすれば優勝できるかもしれないと考えた。

1点の先にカープの野球あり

2016年 二年目は1点にこだわる野球に徹した。

- (1) 方針を打ち出す
- (2) 組織として機能
- (3) 選手の意識改革とコミュニケーション
- (4) ファンへのミッション (信頼の回復)

まず、コーチに対してのスタンスは「任して、任せず」
監督からコーチへ、コーチから選手へ伝えていく際に、上司の適時適切な助言や指示を怠らないことが重要である。その他、

- ①「投手を中心とした守り勝つ戦い」
- ②「接戦に勝つためにチャンスに1点をもぎとる攻撃」
- ③「選手の起用と戦略」などを心掛けた。

次に、カープが勝ち続けられた大きな要素は、トレーナー、スコアラーなどの意識改革である。「千両役者だけでは芝居はできない。舞台裏で働く人がいてこそ芝居ができる。」(松下幸之助)の言葉にもあるように、組織として機能し始め、一人一人が同じ目標に向かうことができた。選手たちの生きた情報はトレーナーから、欲しい情報や資料がスコアラーから入ってくるようになった。監督として決断を行うには、根拠が必要。生きた情報を基にシミュレーションしておけば、指揮する者が勝負の最大の山場で動揺しない。

選手を変えるためには、自分自身の意識改革をする。勝つためには何をしなければならないかに意識を向けて取り組ませる。結果に対する考え方と対処の方法を、試合を通じて身に付けさせることが大事。そのために選手を褒めてあげる。時には、監督が失敗の中身を聞いてやる。結果だけを求めてない。プロセスが大事である。「結びに専念すれば果が生まれる。果に専念すれば苦が生まれる。」

優勝の先に見えたものは、夢のような空間だった。負ける悔しさ、勝つ喜び、両方知ったから3連覇することができた。優勝したことで自分たちの野球に確信がもてた。一人一人が自分の役割を明確に理解して取り組むことができた。「組織」は一人一人の人間の集まりであり、一人一人が同じ目標に向かって、自分の役割を理解するようになれば、大きな目標に到達できると思う。

最後に、33年間のプロ野球人生の中でたくさん多くの人との出会いがあり、いろいろな教え、言葉をいただいた。また、この教え、言葉を次の世代の選手たちにバトンを渡せたと思う。

